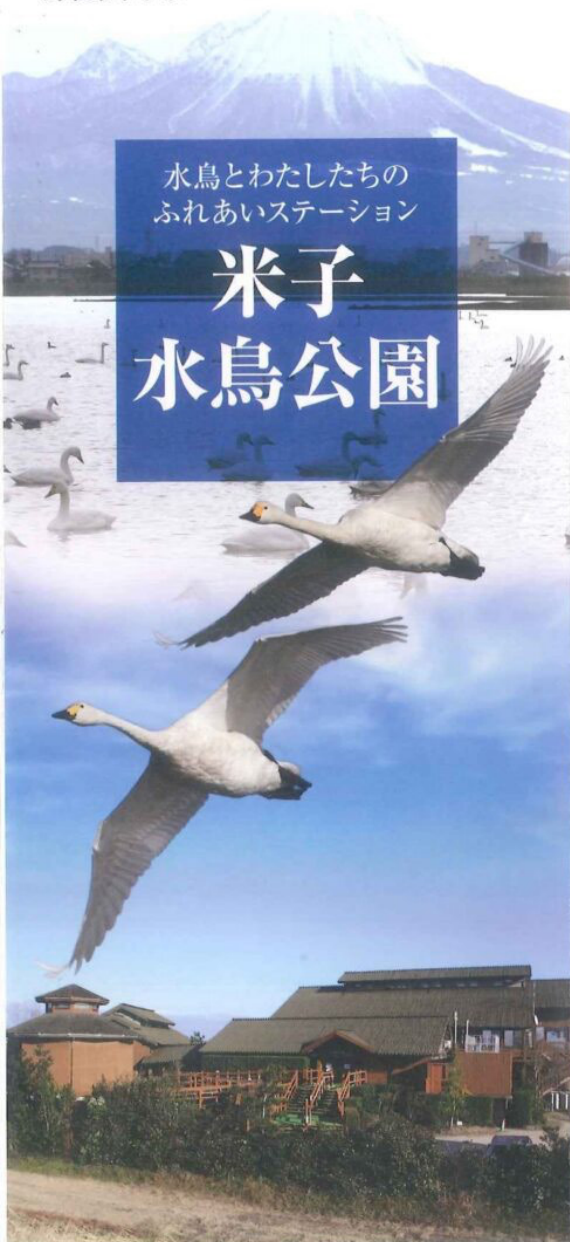


水鳥とわたしたちの  
ふれあいステーション

# 米子 水鳥公園



## 米子水鳥公園について

中海は、コハクチョウの集団越冬地として国指定中海鳥獣保護区に指定されています。

かつて、中海にはコハクチョウのねぐらがたくさんありましたが、干拓によってねぐらとなる浅瀬が次々と失われました。そして、米子市の彦名干拓地にできた池が、コハクチョウにとって最後に残されたねぐらとなったのです。

そこで米子市は、この野鳥生息地を保護するとともに、市民が自然と触れ合う公園として整備し、1995年に米子水鳥公園がオープンしました。2002年には東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップに加盟し、2005年には中海の一部としてラムサール条約登録湿地となっています。

## 水鳥たちとの 出会い、発見、感動。

### ネイチャーセンター

#### 観察ホール

眼前に国立公園大山を望む恵まれた景観の中で、四季を通じて様々な野鳥が観察できます。たくさんの望遠鏡や双眼鏡が備え付けてあり、自由に利用できます。さらに、スタッフが皆様の野鳥観察のお手伝いを致します。また、図書や展示物を使って、野鳥や自然についての疑問を調べることができます。



#### 展示室・スロープ展示

野鳥に関する解説パネルや標本、バードカービングなど、季節に応じて様々な企画展を実施しています。



#### ミュージアムショップ

野鳥を始め、生き物のグッズをたくさん取りそろえています。



#### 視聴覚室

コハクチョウの生活史や、水鳥公園について、様々な映像を上映しています。



## 水鳥たちの最後の楽園へ

交通アクセス



### 交通のご案内

- 車・タクシー** 米子自動車道・米子IC/養生温泉から20分  
米子鬼太郎空港/米子南ICから15分  
JR米子駅から10分
- バス(日ノ丸バス)** JR米子駅から内浜線「下渡津」行で20分  
乗越(バス停)下車。バス停から徒歩15分
- 飛行機** 米子空港より車で約20分

### 開館時間

- 4月～10月 AM9:00～PM5:30
- 11月～3月 AM7:00～PM5:30 (土・日曜日・祝日)
- AM 9:00～PM5:30 (平日)
- 1月1日～1月3日(臨時開館)
- AM9:00～PM5:30(元旦7:00～)

### 休館日

- 火曜日(祝日と重なった場合は翌日)
- 祝日の翌日
- 12月29日から1月3日まで

### 入館料

| 区分      | 個人     | 15人以上の団体   |
|---------|--------|------------|
| 一般      | 310円   | 1人につき 200円 |
| 年間パスポート | 1,500円 |            |

- 以下の方は、入館料が免除されます。(証明できるものの提示が必要です)
- ・70歳以上の方
- ・身体障がい者の方
- ・要介護認定者の方
- ・中学生以下のお子様

### お問い合わせ

公益財団法人 中海水鳥国際交流基金財団  
〒683-0855 鳥取県米子市彦名新田665  
TEL 0859-24-6139 FAX 0859-24-6140  
Email: info@yonago-mizutori.com  
HP http://www.yonago-mizutori.com



米子市役所 市民生活部 環境政策課  
〒683-8686 鳥取県米子市加茂町1-1  
TEL 0859-22-7111(代表)



## 米子水鳥公園の活動

### 国際交流

ロシア・韓国をはじめとする海外の研究者や湿地保全活動に取り組む人々と、鳥に関する国際交流を進めています。



### 調査研究

米子水鳥公園に飛来する野鳥の種類と数の記録のほか、環境省で実施している渡り鳥調査(鳥類標識調査)に積極的に協力しています。そのほか、水鳥公園周辺の生物の調査も行っています。



### 普及啓発(イベント)

米子水鳥公園では、毎月様々なイベントを行っています。

- ・自然観察会
- ・手作り自然教室
- ・子どもラムサールクラブ
- ・米子市子どもエコクラブ

その他、ゴールデンウィーク・夏休み・冬休みの特別イベント等。また、団体での来園をご予約の際には、ご要望に応じて米子水鳥公園の自然を学べる体験プログラムも承ります。



### ボランティア活動

米子水鳥公園では、「米子水鳥公園友の会」「Jr. レンジャークラブ」をはじめ、多くの市民団体が、水鳥の生息環境を整備するための草刈りや、園内清掃、花壇の除草作業、イベントの補助、野鳥の解説等、様々なボランティア活動を行っています。



## 米子水鳥公園の生き物ガイドマップ

### 1 オナガガモ(秋~冬)

ネイチャーセンターや棧橋から、最も身近に観察できるカモです。水に潜れないため、逆立ちして水底の水草等を食べます。



### 2 ホシハジロ(秋~冬)

米子水鳥公園では、多いときには数千羽の群れが見られます。盛んに水に潜り、採食する様子が見られます。



### 3 ヨシ原や水草群落

池の水を浄化すると同時に、様々な生き物達の営巣場所や隠れ場所を提供しています。



### 4 マガン(秋~冬)

国の天然記念物に指定されている水鳥です。時折、採食地へと旅立つ際に「雁行」が観察できます。



### 5 カルガモ(通年・夏に多い)

米子水鳥公園内で毎年繁殖しています。初夏には、たくさんのヒナを連れて泳ぐ様子が見られます。



### 9 メダカ(春~秋)

水草が豊かな「つばさ池」には、メダカも見られます。



### 10 カワウ(通年)

池に潜って魚を捕らえて食べたり、池の杭の上で翼を乾かしています。



### 11 カワセミ(通年)

杭やヨシの茎によく止まり、池に飛び込んで小魚を捕らえて食べます。



### 12 アオサギ(通年)

日本では最も大きなサギです。水辺で水面をにらみ、魚やエビを探しています。



### 6 カイツブリ(通年)

6月~8月に、水面に水草で「浮き巣」をつくり、子育てをします。潜水して泳ぐのが得意で、小魚を捕まえて食べます。



### 7 コハクチョウ(冬)

ツンドラの厳しい冬をさけて、10月中旬から3月中旬の間、米子水鳥公園で過ごします。日中、多くの個体は、中海の対岸の安来平野に落ち穂を食べに行きます。ハクチョウたちが公園を出入りする朝・夕の姿はとても壮観です。



### 中海

日本で5番目の大きさの湖で、2005年11月8日にラムサール条約に登録されました。

### 8 オオヨシキリ(春~夏)

ヨシ原でにぎやかにさえずっている鳥です。昆虫を食べ、ヨシ原の中で子育てをします。

